GBS理論の応用例――地域との協力関係構築：エバンスベイで地域集会を持つ

EPA(米国環境保護局）職員研修用コミュニケーション技法を扱ったシミュレーション教材
（シャンク率いるノースウエスタン大学学習科学研究所デザインチームの代表作）

物語：EPA 調整官としてPCB 処理問題で紛糾している仮想コミュニティ「エバンスベイ」に赴任したユーザは、最初の地域集会（スクリーンショット参照）が今夜開催される予定になっていることを知る。上司は他の案件で出られないので、EPA を代表して出席することが任務として課される。自室に着いた瞬間にPCB 汚染を引き起こした会社の広報官が「話がしたい」と訪ねてくる場面で、「会う」か「断る」かの選択を迫られる。「断る」選択をして地域集会に行くと、広報官が最前列に座って待ち構えている・・・

教材の形式：

現実に起こりそうな場面で常に選択を迫られる（画面左にここでは4 つの選択肢が表示されている）。一つを選ぶと、それを「実行」するか「検討」するかのオプションがあり、「検討」を選ぶとその選択肢の長所と短所がリストされ、関連情報（主として協力関係構築の手順モデルと関係者の経験に基づく証言ビデオ）へのリンクが表示される。「実行」を選ぶと、シミュレーションが分岐的に進み、そのあと「何が起きたか」の説明と関連情報へのリンクで一度進行が中断し、その後に続きの物語が展開する。

エバンスベイ地域集会
（EPA 調整官の視点）

協力関係構築の諸課題リンク

体験談ビデオへ

意思決定・調査で参照可能な豊富な情報　　450 以上の経験談ビデオ
（経験知の共有が最も歓迎される要素になった）

Source: The Institute for the Learning Sciences, Northwestern University (1998). Community partnering for environmental results: a learning-by-doing approach to building public outreach skills (Scenario 1: Evans Bay) (ver.1). U.S. Environmental Protection Agency

出典：2006.11.30講演「セッション1：続けないeラーニング、セッション2：教えないeラーニング、セッション3：作らないeラーニング」，eラーニングフォーラム2006WINTER（トラックB：「続けない＋教えない＋作らない＝次世代IDの勧め」），青山学院大学（鈴木克明・北村士朗・市川尚との共同発表）